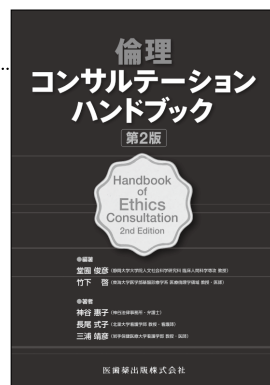


『倫理コンサルテーションハンドブック 第2版』

堂園俊彦・竹下 啓 編著／神谷恵子・長尾式子・三浦靖彦 著

●定価 4,070 円(税込み) ● B5 判 184 頁 ●医歯薬出版刊

●発行年月：2024 年 8 月 ● ISBN978-4-263-73231-1



臨床倫理を扱いつつも、「人材養成」全般にも通じる書

医療の現場には、様々な臨床倫理上の問題が存在する。臨床倫理は、医療・ケアを提供する側や受ける側に生じた「もやもや感」「気がかり」についてあらためて考える活動である。「もやもや感」や「気がかり」は、価値観の対立・衝突の結果かもしれないし、将来の見通しの不確実性に対する不安の結果かもしれない。現在、医療の選択肢が増え、個人の価値観が多様化している。臨床倫理の問題への関心は高まり、コンサルテーションチームや委員会を設置して、組織的に取り組もうとする動きが活発になってきた。

そんな今、「倫理コンサルテーションハンドブック 第2版」が出版された。編者・著者らは、倫理学者、臨床現場で働く医療者、法律家であり、20年以上、共に、この問題に取り組み、長年活動してきた研究者である。全7章からなる本書の各章は分担執筆ではなく、協働して執筆されており、まさに、コンサルテーションチームに相談しているかのようだ。東京大学に設置された生命・医療倫理人材養成ユニット(現：東京大学生命・医療倫理教育研究センター、CBEL)での学びとその後も続けられた編者・著者らの十分なコミュニケーションが本書に表れている。本書は2019年に第1版が出版され、その後の新たな知見を追加したのが本書第2版である。2024年の診療報酬改定に含まれた「身体的拘束最小化」も適時に取り上げられている。

本書は、臨床倫理を扱いつつも、「人材養成」全般にも十分通じる。医療技術がどれほど発達しようと、医療とは、人と人との交流にほかならない。医療者が臨床倫理の問題に誠実に継続的に取り組む豊かな土壌があれば、医療者は育ち、医療の質の向上につながる。逆にその土壌がなければ、医療者は疲弊し、人材が定着せず、医療の質が低下するおそれがある。本書では、倫理コンサルタントには、「チームの一員として主体的に解決策を見つける役割ではなく、一歩引いた立場から議論を活性化する」役割があるとしている。これは人材育成にも通じる。医療者一人ひとりが自分で考え、主体的にものごとに取り組むようになることを倫理コンサルテーションの枠組みの副産物として得ることができる。

教育・研修の場をわざわざ設定せずとも、倫理コンサルテーションの枠組みが教育・研修になる。ぜひ、病院の幹部にも本書を手にとってほしい。「臨床倫理コンサルテーション」の導入と活動の定着によって、医療人育成を実践できるからだ。

(松村由美／京都大学医学部附属病院医療安全管理部)